

発行日： 平成29年 2月21日

発行者： 今村証券株式会社

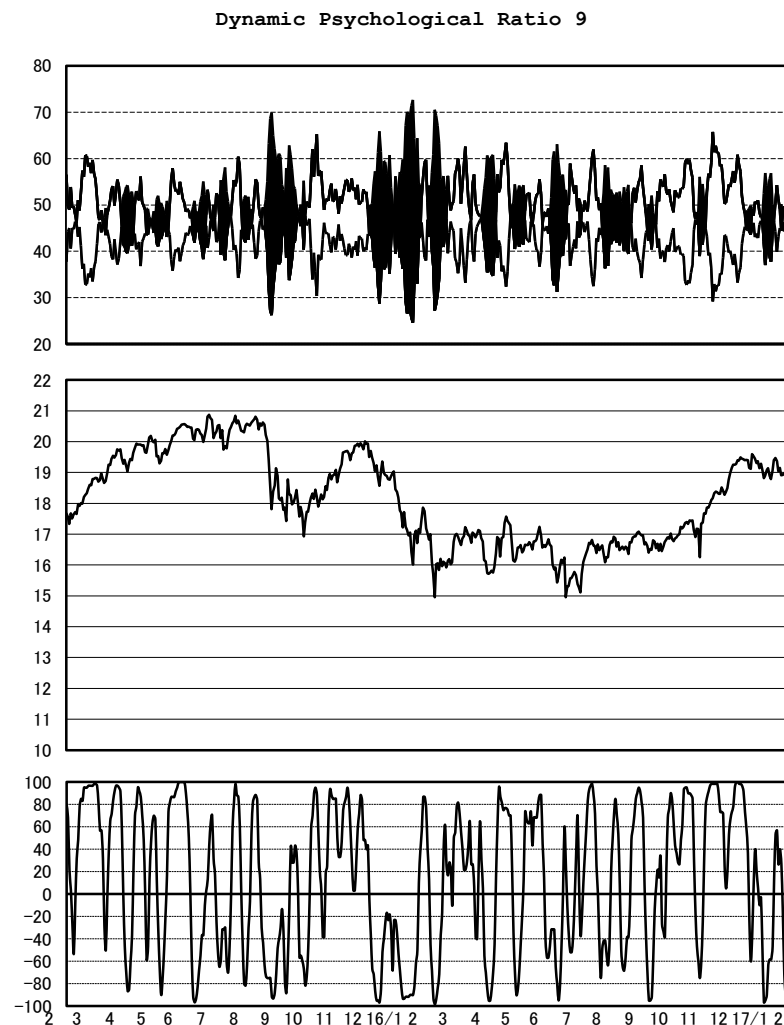
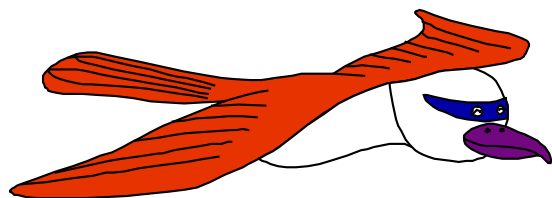
金融商品取引業者 北陸財務局長（金商）第3号

日本証券業協会加入

制作責任者： 営業業務部 調査課

情報シャトル特急便

第591号



上図は騰落銘柄数をベースとした独自のもので、黒の幅が拡大→買い場、白の幅が拡大→売り場
下図はRCI（9日ベース）で、 -80%ラインを上につき抜け→買い場
80%ラインを下につき抜け→売り場

大 所 高 所

人体には2つの意思決定システムがある。「早いシステム＝背外側前頭前皮質が言動を決める」と「遅いシステム＝眼窩前頭皮質が言動を決める」である。トランプ新大統領は前者が強い体質＝サイコパスだ、と、脳科学者の中野信子氏が文芸春秋3月号に書いている。これまで沢山のトランプへの論評を読んできたが、これが一番納得させられる。

背外側前頭前皮質は合理的かつ非情な判断を即決で下す場合に使われるのだが、これを使うことは、調和を重んじてゆっくり判断を下す眼窩前頭皮質にとって非常に負担が重い。しかし、サイコパスはそれを極めて楽に使える。だから、世の中で頭角を現すのが割と簡単なのだ。この特質を持つ人はおおよそ100人に1人で、特に冷酷な判断を求められるリーダーに多い。ムラ社会に属する日本人には少ないが、「織田信長」がその代表と考えれば分かりやすい。

サイコパスの特性は ①根拠の無い自信がパッと閃く ②反社会的性格なので既存メディアを嫌う ③自分に利をもたらない人間はモノとしか見えない ④異性を性的対象としか見ない ⑤利害関係だけで人間関係を考える …など。 弱点が無い訳では無い。裏切りによって足を掬われたり、嫌になって投げ出すことが多いことなどには注意が必要のようだ。

(B I S)

た だ 一 筋

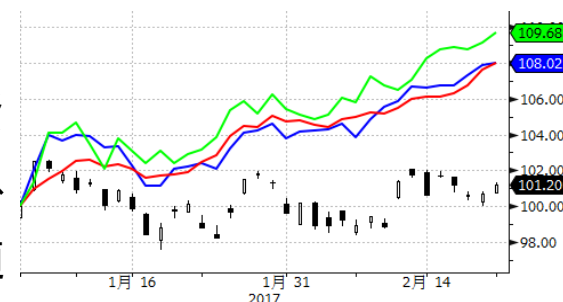
トランプ米大統領が就任して一ヶ月。この間「米国ファースト」発言に振り回され続けている株式市場だが、9日の発言「税制改革について2～3週間以内に驚異的な計画を公表する」は「保護主義＞積極財政」から「保護主義＜積極財政」へと向かうきっかけになる可能性が高く、大きな注目が集っている。

その期待感からN Yダウは史上最高値を更新しているが、日経平均株価は期待感はあるものの、トランプ政権そのものに対する懸念が払拭されず19,500円処を上値に頭重い動きとなっている。ただ、昨年末の急上昇に対する日柄整理と見る向きや「東芝ショック」、また、国内機関投資家による期末の益出し等に因るものと見る向きが多く、「買いたい弱気」が強く伺える。

好調だった10－12月期の企業決算や来期18年3月期への期待感、100点満点の日米首脳会談などもっと高評価すべき好材料が積重なっている。ここからは3月末2万円台を想定したい。

このような状況下、物色面は大型株ではなく、個人投資家の売買回転が効きだした中・小型株が狙いではないか。東証2部指数は史上高値を更新、日経JQ平均、マザーズ指数も上値を着実に追い出している。この流れに是非追随していただきたい。セプテーニ・ホールディングス(4293)、日本農薬(4997)、セイコーホールディングス(8050)を来期が楽しみな銘柄として注目したい。

(三感王)



日経平均(黒)・東証2部指数(青)・日経JQ平均(赤)・マザーズ指数(緑) 昨年末を100として算出
出所：ブルームバーグ

参見屋たり当

先週の株式市場は米国株主要 3 指数が連日で史上最高値を更新、一方日本は上値の重さが目立った。日本株は東芝問題など日本独自の悪材料もあり、米国株に比べ出遅れ感が強い動きとなっているのだが、外国人から見ればそうでもないようである。単純に日経平均株価の値を円ドルレートで割った米ドル建て日経平均は先週 2000 年以來の高値を更新してきた。日本株は確かに円建てで見ると出遅れていることになるが、外国人からすると強気のサインが出ており、NYダウの最高値更新に続くことが期待できる。日本独自の悪材料などが解消してくると円建てでも上昇が期待できそうだ。

需給がよくなる傾向がある春頃に向けて日本株は米国株を追いかける格好で高値を更新することが十分期待でき、足元の押し目はぜひ積極的な対応をしたほうが良いのではないかと考える。

非鉄セクターに、株価が高く推移する銘柄が見られる。三井金属は 10-12 月期営業利益が前年同期比 5 倍で着地、市場予想を上回る通期業績予想の上方修正を発表し連日買いが先行している。

(枕上厠上)

中 堅 の 視 座

「銅」の値上がりが続いている。銅は自動車、電子機器や家電、送電線など幅広い分野で使われることから、その価格は景気に先行して動き、「ドクター・コッパー」という異名がある。ロンドン金属取引所（LME）の3ヶ月先物の銅価格は昨年10月に中国経済の回復やトランプ米大統領のインフラ投資期待から上昇基調となり、足元では世界経済の回復期待と供給不安から2月13日には一時6204ドルと、約1年8ヶ月ぶりの高値を付けた。上場企業の2017年3月期純利益は2期ぶりの最高益更新の見通しとなったが、銅の値動きをみると、2018年3月期の業績も好調が続くとの期待が持てそうだ。

その中で古河機械金属（5715）を取り上げたい。銅の市況次第で業績が変化する会社であり、非鉄セクターに属するが、もう1つの柱として機械3部門（産業機械、ロックドリル、ユニック）も持つ。なかでも、資源・インフラ開発用機械のロックドリルに注目したい。リニア新幹線、東京外環自動車道、米国のインフラ開発投資など材料が豊富である。

（笑春）

きらきら星

NYダウが史上最高値を更新し上昇基調を維持している一方、日経平均株価は19,500円を上限に、持ち合い相場が続いている。10－12月決算発表で明らかになったように、企業業績などファンダメンタルズが良好ななか、好業績銘柄の物色意欲は旺盛で、今後は引き続きトランプ大統領の発言や政策を見極めながら個別株相場が続くものと思われる。注目は28日のトランプ大統領の議会演説。減税政策が発表されるようなら、20,000円台回復も現実味を帯びてくるだろう。

このような中、新興市場は力強い足取りを見せており、日経ジャスダック平均は昨年9月以降上昇が続き、2015年7月に付けた2,847ポイントを抜いてきた。またマザーズ指数も1,000ポイントを回復。昨年春先の活況をリードした「ソーせいグループ」が業績の下方修正後に切り返してきたことで投資マインドが一層強くなってきたように思われる。目先は、日経平均の動向を注視しながら、個別株物色の流れに乗っていきたい。

製造派遣・請負事業のUTグループ(2146)、総合保障サービスのイントラスト(7191)、岡本工作機械製作所(6125)、モバイルゲーム事業のアカツキ(3932)、コインランドリーのWASHハウス(6537)などに注目している。

(K ^)

アナログの俯瞰

米トランプ新政権への期待は根強いが、実業家としてのプラスの面と政治家としてのマイナスの面が互いに見え隠れしてるような状況、相場はしばしの揉み合いと見て、個別株の出番到来。今年はこの付けからA I（人工知能）、I o T（モノがインターネットで繋がる）という二つの略語が様々なメディアで飛び交っている。A Iという言葉は昔から耳にするが、市場のテーマとして浮上してきたのはここ最近の気がする。それとI o T。これは最近の言葉か。身近なもので言えば例えば家電。スマホやパソコンで外からインターネットを介してエアコンや炊飯器の電源やタイマー操作ができ、ある意味コスト面での利点がある。I o Tとはあらゆるモノが対象なわけで、モノの状態、位置、環境、動きなどを知り、また変えることができるという優れものだ。

今後もこの二つは進化・発展を続けるだろうが、意思を持つコンピューター（ロボット）の人間に対する謀反が個人的な懸念だ。映画「ターミネーター」が頭に浮かぶ。これは杞人の憂であることを願って心の奥底にしまっておきたい。

既にI o Tに注力してるJ I G-S A W (3914)、車載向けI o T機器にA I 導入センサー (6902)、最高益更新セーレン (3569)。

（A I を最初に知ったのがドラゴンクエストとは、らしいよクレイジーゲーマー）

アナリストによる北陸企業便り

(近藤浩之)

＜小松精練＞

2017年3月期第3四半期の営業利益は57%の増益。主因は、構造改革や原燃料価格の下落だ。構造改革では、省エネ化、加工時間の短縮などを可能とする設備への入れ替え、生産工程の見直しを行った。燃料価格は2014年夏以降の原油価格の急落を受けて下落した。

今後も他社が真似できない素材の開発を推進する事業戦略を堅持する。開発した素材を積極的に海外の展示会に出展したり、個展を開催したりして新規顧客の獲得、販路拡大を図る。

資材分野の拡大にも取り組む。今月には株式会社セイハウ（栃木県）の買収を発表した。セイハウは主に腰椎バンドやサポーターを製造しており、同社の販路を活用することで事業拡大が見込めると判断したようだ。また、炭素繊維複合材は善光寺（長野県）の重要文化財「経蔵」の耐震補強材に採用されたほか、様々な用途で採用に向けた動きがみられる。

中長期的な視点では海外市場の展開のための技術力、開発力を評価したい。来期は構造改革での利益改善が続くだろう。海外市場の拡大、買収による押し上げも期待できる。対して、国内市場は大手アパレルの販売不振による悪影響や、値上がりに転じた燃料価格の動向に注意したい。来期業績を2割程度の増益と想定すると、EPSは35円程度、予想PERは21倍となるが、同業他社と比較すると割安感はない。

” 僧 中 線 罫 ”

6121 滝澤鉄工所

日経平均株価 19,520 円を大引けクリアなら 2 万円へ挑戦！

米トランプ大統領が予告した驚異的な税制プランは、今月末 28 日の本会議演説で発表されるとみられている。東京市場は 19,250 円を挟んだ揉み合いが続きそう。しばらくは中小型株優位の相場展開になるだろう。

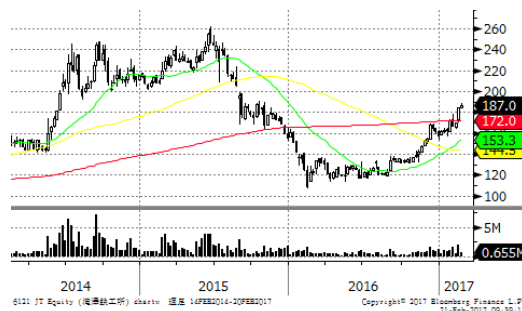
今回も機械株の低位から滝澤鉄工所に注目したい。東証 1 部の中堅工作機械メーカーで、大手工作機械の PER (20 倍前後) と比較すると割安感が大い。2006 年の高値は 502 円で現状はまだまだ出遅れ感が強い。米国は今後、工場建設のラッシュが予想され工作機械メーカーは特需に沸くのではないかと考える。

先月 17 日に取り上げた岡本工作機械製作所 (6125) は 1/16 終値 163 円→2/3 高値 208 円と、上昇率 27% を達成した。
(ICHI)

月足



週足



出所：ブルームバーグ

滝澤鉄工所の投資指標

株価	(17/2/20)	187 円
EPS	(17/3期予)	13.72 円
予想PER		13.6 倍
BPS	(16/3期実績)	215.75 円
PBR		0.9 倍
年間配当金 (17/3期予)		4.00 円
予想配当利回り		2.1 %

出所：滝澤鉄工所

* 情報シャトル特急便は、投資家の参考となる情報提供を目的としておりますが、投資にあたってはご自身の判断でなされるようお願いいたします。

株式の売買取引には、約定代金に対して最大 1.1799%（税込）（1.1799% に相当する金額が 2,565 円未満の場合は 2,565 円（税込））の委託手数料をご負担いただきます。株式は、株価の変動により損失が生じるおそれがあります。

非上場債券を当社が相手方となりお買い付けいただく場合は、購入対価のみお支払いいただきます。債券は、金利水準の変動などにより価格が上下し、損失を生じるおそれがあります。

投資信託にご投資いただくお客さまには、銘柄ごとに設定された販売手数料および信託報酬等の諸経費等をご負担いただきます。投資信託は、主に国内外の株式や公社債等の値動きのある証券を投資対象とし投資元本が保証されていないため、当該資産の市場における取引価格の変動や為替の変動等により投資 1 単位当りの価値が変動します。したがって、お客さまのご投資された金額を下回ることもあります。

外国株式・外国債券等は、為替相場の変動などにより損失が生じるおそれがあります。

商品ごとに手数料等及びリスクは異なりますので、その商品等の上場有価証券等書面、契約締結前交付書面やお客様向け資料をよくお読みください。